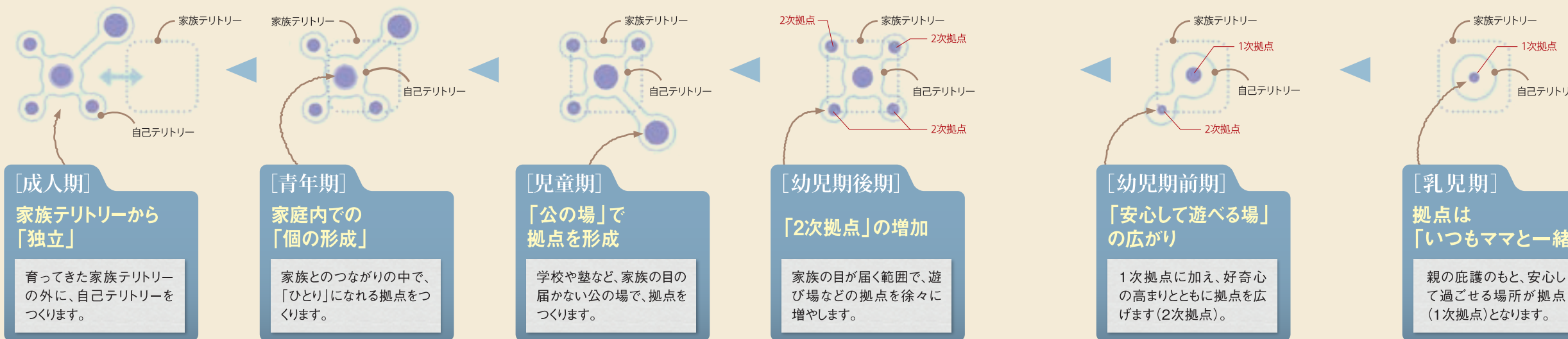


第6回

子育ての視点で見えてくる、 子どもの居どころ、 大人の居どころ。

テリトリーの変化

●は子ども自身の行動拠点を表しています。
※テリトリー……心身の安定した生活を保証されている精神的・社会的・空間的領域。



“大人の居どころ”が充実する、 グランドメゾンの子ども空間。

外遊び空間 【屋外共用空間】
ママにうれしい日陰のベンチ
子どもが安心して遊べる場をつくることは、パパやママが子どもを見守りやすい環境をつくることでもあります。過ごしやすい「居どころ」となる、日陰やベンチを設けています。

グランドメゾン伊丹池尻リテラシティ(P55参照)

キッズルーム 【屋内共用空間】
パパも子ども楽しめる空間
パパがインターネットを楽しみながら、遊具で遊ぶ子どもを見守ることができる。お互いにとっての理想的な関係を築ける環境を考えた、キッズルームを取り入れています。

グランドメゾン伊丹池尻リテラシティ(P55参照)

勉強コーナー 【専有空間】
親子一緒に過ごす空間
幼い子どもは、親と一緒に居られるダイニングでお勉強するケースが多く見られます。右の写真は、親子で、お食事にもお勉強にもマルチに使えるワークテーブルをダイニングに設けた事例です。

グランドメゾン大塚EQSINA

子どもの成長に合わせた住まいとは。

積水ハウスは、成長を見守るお母さんとお父さんの思いに目を向ける「子育て」の視点とともに、子どもが自ら育とうとする力に目を向ける「子育て」の視点も重視していることを、これまで本誌で紹介してきました。

最近、「いくつになれば、子ども部屋があるのかしら?」「いつまでも親がべったりでは、良くないのでは?」といったお声が寄せられます。このことも、親の視点だけでなく、子どもの成長や活動範囲の拡がり方を観察することで、ふさわしい時期が見えてきます。

「子どもの居どころ」を知る。

生まれたばかりの子どもは、親の庇護のもと、安心して暮らすもの、見慣れたもののある所を生理的な拠点にしています。やがて、立ち上がり、安心して遊べる拠点をみつけ、友だちと遊ぶようになり、子どもたちの活動範囲は公の場や外へと広がっていきます。

このように、子どもたちは心身の発達にともなって、自分の居どころ＝テリトリーを本能的に拡大していきます。それが成長ということなのです。動物が「なわばり」を持つと同様に、人間も「テリトリー」の意識とともに成長すると考えられています。

成長とともに拡がる「テリトリー」。

乳幼児から成人までの、テリトリーの変化を示したものが、上の図です。生まれたばかりの子どもは、一人ではいられません。必ず、お母さんと一緒に自己テリトリーは、親の庇護のもと、すっぽりと家族のテリトリーに包まれています。やがて、大きくなるにつれて親の庇護から離れ、目の届かない場所へと出かけるようになります。大人(家族)のテリトリーと子どものテリトリーは、図のよう段階を追って、少しずつ分離していくのです。ダイニングで勉強していた子どもが、いつしか自分の部屋で勉強するようになる、というのもその過程のひとつです。子どもがテリトリーを拡げていく欲求に合わせて、少しずつ「子どもの居どころ」をしつらえていくこと。そうしたことが、子どもの成長にとって、とても大切なことなのです。

「大人の居どころ」とは。

親は、子どものための空間を考えると、子どもの居どころばかりを考えてしまいがちです。しかし、「子育て」の視点から見れば、そこに大人の居どころをきちんと計画することが大事であることに気づきます。子どもたちの居どころの自然な拡がりを抑制せずに、親が見守り、その成長を応援する。「子どもの居どころ」と「大人の居どころ」両方を考えることが、積水ハウスの「子どもの空間」の考え方です。例えば、幼児期の子どもは、外で遊んでいる間も親の見守りがほしいと思っています。外遊びの場所に、落ち着いて腰をかけるベンチや涼しく過ごせる日陰があれば、大人にも過ごしやすく、親子ともに有意義な時間を過ごせるスペースになるのです。

「居どころ」の変化に合わせた空間づくり

子どもの居どころは、ママといつも一緒にいる乳児期から、完全に離れる成人期まで、段階的に変化します。居どころとなる空間は、その変化のきつかけに合わせてしつらえていくことが理想です。グランドメゾンでは、成長していく子どもと、それを見守る大人の関係を長期的な視点で見つめ、子どもの居どころの変化に合わせてフレキシブルに対応することのできる空間の提案や、親子がともに過ごす時間を大切に考えた空間づくりに取り組んでいます。

